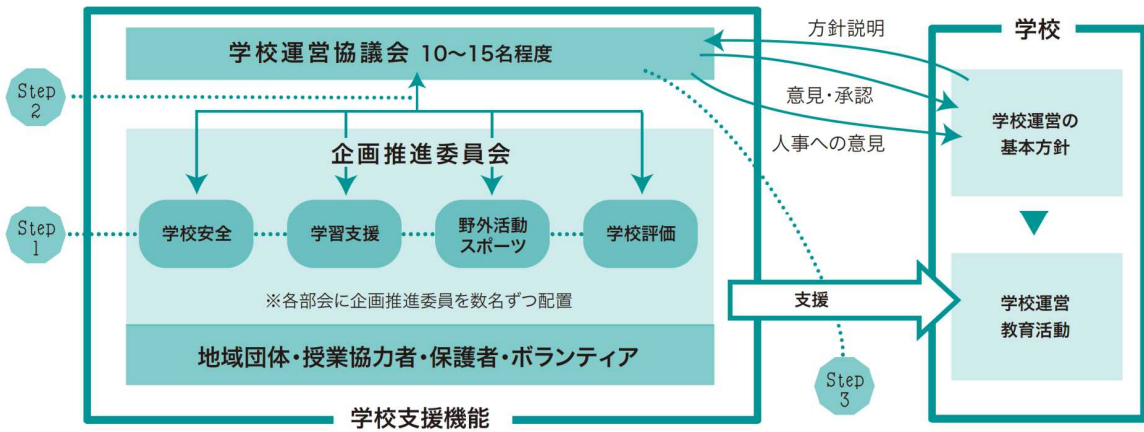


1. 学校支援機能包括型コミュニティ・スクール

組織図



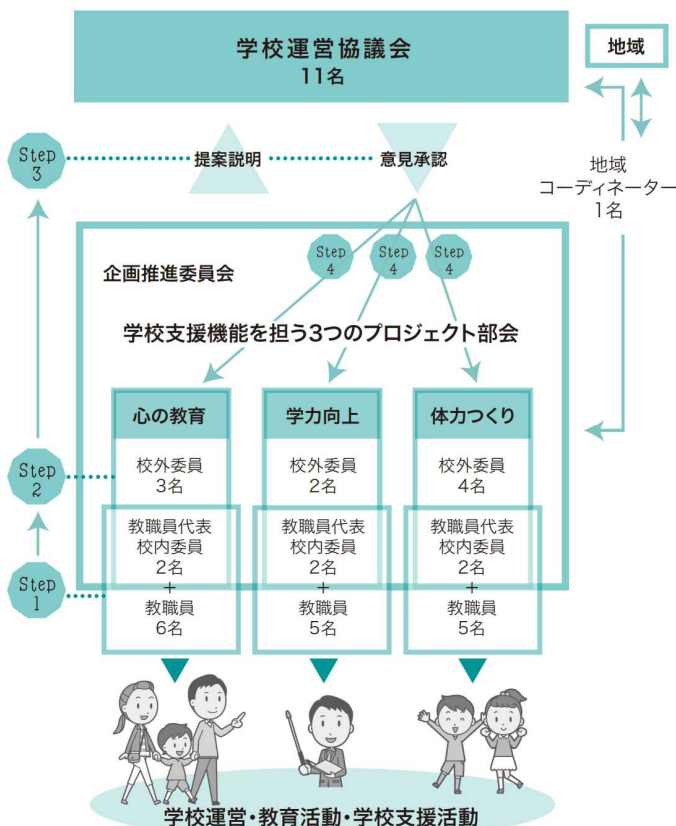
学校支援活動の流れ

- Step 1** 学校運営協議会の下部組織に企画推進委員会を設置している。同推進委員会は、活動テーマ(例:学校安全、学習支援、野外活動・スポーツ、学校評価など)別の複数の部会(委員会)によって成り立ち、年間計画は各部会が立案する。
- Step 2** 学校運営協議会委員は全員、いずれかの部会に所属し、そのうち数人は各部会のリーダーも兼ねる。
- Step 3** その兼任委員が、学校運営協議会に計画案を提示する。そこで調整、承認し、具体的な取り組み内容も検討している。

☆リーダー兼学校運営協議会委員が各部会に持ち帰り、地域団体やボランティア、保護者の協力を得ながら企画推進委員とともに準備し、実践している。

2. 学校支援を担う専門部会設置型コミュニティ・スクール

組織図



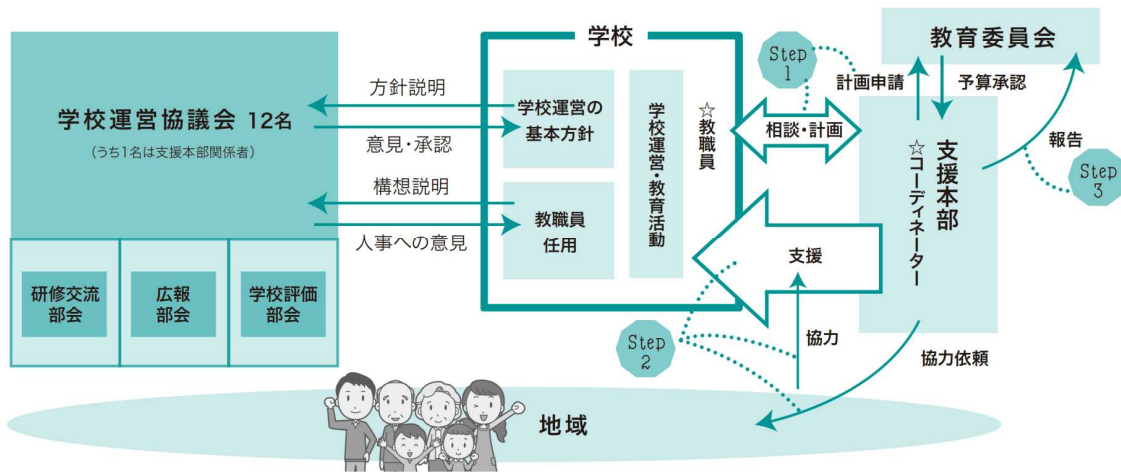
学校支援活動の流れ

- Step 1** 全教職員は分掌によって3つのプロジェクト部会(心の教育、学力向上、体力づくり)に所属している。具体的な活動内容案を企画・検討する。
- Step 2** 各プロジェクト部会から発案されたプランは、プロジェクト部会ごとに設置されている企画推進委員会で協議される。企画推進委員会は、教職員代表(校内委員)2名程度と、地域人材の校外委員2~4名程度で構成される。
- Step 3** 企画推進委員会で決定した活動案を学校運営協議会に提案する。
- Step 4** 承認が得られたプランを各プロジェクト部会が推進、実践している。

☆学校運営協議会委員と企画推進委員会委員は重複せず、別の人材である。

3. 学校支援地域本部を分離設置型コミュニティ・スクール

組織図



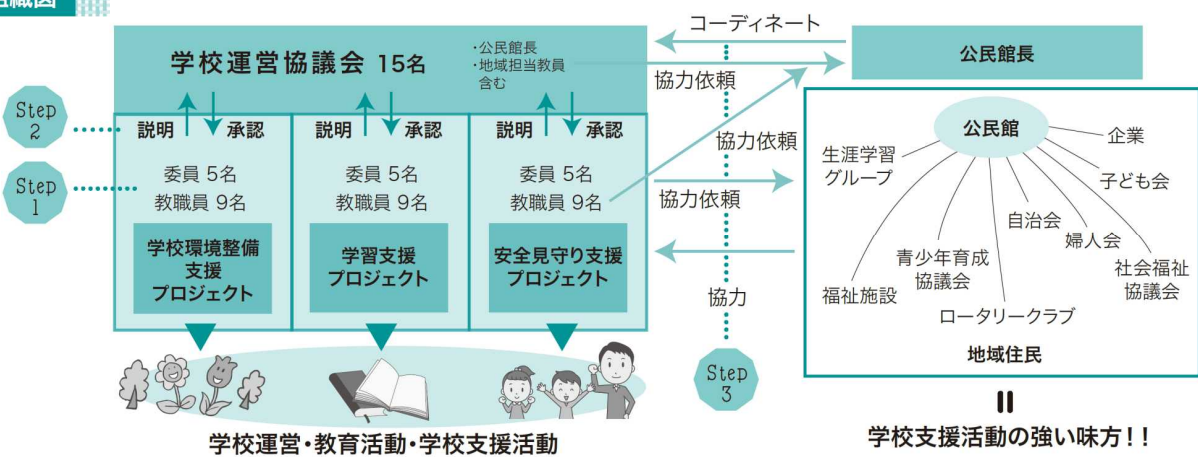
学校支援活動の流れ

学校支援活動は、別組織の学校支援地域本部（以下「支援本部」という）が行う。

- Step 1** 教職員と支援本部員（以下、コーディネーター）がどのような支援活動を行うかを相談し、主な計画を立てる。
 定期的な会議も開くが、教職員のニーズに応じて適宜ミーティングを行う。
 計画は教育委員会に申請することで予算がつく。
- Step 2** コーディネーターが中心となり、地域のネットワークを生かして支援人材（サポーター）などを集め、支援活動を実施する。
- Step 3** 年度末に教育委員会に報告する。

4. 公民館タイアップ型コミュニティ・スクール

組織図

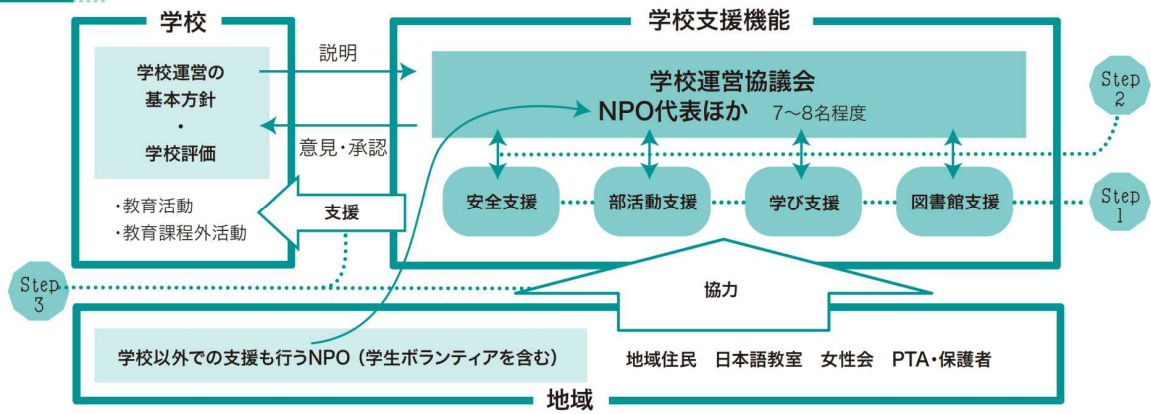


学校支援活動の流れ

- Step 1** 学校運営協議会の附属組織である3つのプロジェクトチーム（学校環境整備支援、学習支援、安全見守り支援）がそれぞれ具体的なプランを練る。学校運営協議会委員15人（教職員5人を含む）は5人ずつに分かれ各チームに所属している。委員ではない全教職員もいずれかに属し、一緒に話し合う。
- Step 2** チーム内の意見をまとめ、協議会に活動案を説明する。質疑応答を経て、承認されたのち、各チームで実現に向けて始動する。
- Step 3** 委員の一人でもある公民館長が地域との橋渡し役。ニーズに応じ、公民館に集う各団体や適任者に声をかけコーディネートする。
 また、学校には委員も担う専任の「地域担当教員」がいる。例えば、授業を協力してもらいたい場合、「地域担当教員」が教員のニーズを吸い上げ公民館長に人選を依頼する。各教員が、自ら公民館長に直接働きかけることもあるが、その際、「地域担当教員」には必ず報告し、「地域担当教員」から管理職に伝える流れになっている。

5. NPO協働型コミュニティ・スクール

組織図



学校支援活動の流れ

